

IV-38

欧米人からみた東北地方の魅力について

～関東、関西、東北地方滞在外国人による比較～

岩手大学 正 員 安藤 昭
 岩手大学 正 員 赤谷 隆一
 岩手大学 学生員 ○石川 英俊

1. はじめに

昭和62年に多極分散型国土の形成を、計画の目標とした第4次全国総合開発計画（四全総）が策定された。この計画実現のための主要施策として、個性的で美しい国土の創造と交流ネットワーク（地域間および国際間）の形成があげられている。また計画の目的である多極分散型国土の形成として地方圏の戦略的重点整備をあげている。このように、地方圏における国際化の時代に対応した地域環境づくりが重要になってきている。

国際的視点を取り入れた地域環境形成のための基礎的研究として、外国人からみた東北地方の魅力について分析を行ってきた。前回は東北地方に滞在している外国人に対して調査を行ったが、今回は関東と関西地方に滞在している外国人に対して調査を行い、前回の結果と比較し、東北地方の魅力創出のための課題を追求するものである。

2. 調査の方法

国際的視点から東北地方の魅力を探索するにあたり、被調査者は「わが国と異なる風土・文化のもとで育ち、東北地方の魅力を新鮮な視点で捉えられることが出来る被調査者であること。」また「一定規模の標本が確実に得られる被調査者であること（在住外国人の自宅住所は市役所で公表しない）。」の理由から東北、関東、関西地方に滞在し中学校・高等学校・教育委員会に勤務している外国人英語指導助手を選定した。

調査は郵便調査法によって行い、被調査者には東北地方について訪問したことがある場所をそれぞれ記入してもらい、それぞれの場所に対する訪問の目的、印象に残ったもの、満足度および不満点を記入してもらった。また関東、関西地方に滞在の被調査者は、東北地方を訪れたことがない場合が考えられる。そのため、訪れてみたいと考えているところがある場合には、その場所と目的を記入してもらった。（以降、東北地方に滞在している外国人の被調査者を東北滞在者、同様に関東滞在者、関西滞在者とする。）

なお、調査期間は、東北滞在者は平成7年2月21日から平成7年3月10日、関東、関西滞在者は平成7年9月16日から平成7年9月30日と平成8年1月16日から平成8年2月2日である。

3. 分析結果および考察

(1) 東北地方への訪問割合

図-1に関東地方と関西地方の東北地方への訪問割合を示す。

関東滞在者で東北地方を訪れたことがある人が約3割であり、また関西滞在者で東北地方を訪れたことがある人が約1割であった。

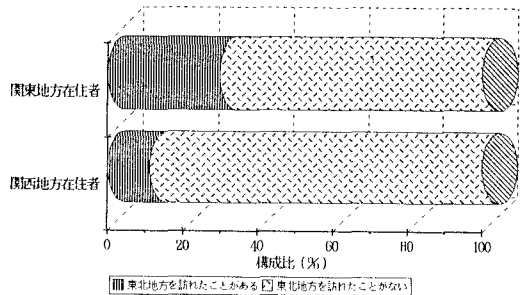


図-1 東北地方への訪問割合

(2) 訪問タイプ別入り込み数およびタイプ別希望訪問数

図-2に東北滞在者、また関東、関西滞在で東北地方を訪れたことがある人の訪問タイプ別入り込み数と関東、関西滞在で東北地方を訪れたことがない人のタイプ別希望訪問数を示す。

訪問タイプ別入り込み数から東北滞在者は、各要素とも1割以上の比率を保っている。しかし関東滞在者においては、海岸・半島、関西滞在者においては、温泉といった要素が1割未満にとどまっていた。また関東、関西滞在者は、ともに半数近くの割合で都市を訪れていることがわかる。都市については、青森、弘前、三沢、八戸、盛岡、平泉、仙台、福島、会津若松、いわきなどの太平洋側にある都市が多くあげられていた。これは、東北新幹線が通っているためだと考えられる。その中でも仙台、青森については、訪問経験のない外国人においても希望訪問地として多くあげられていた。また訪問経験のある関東滞在者の山岳において、福島県の磐梯山が多くあげられていた。訪問経験のある関東滞在者において、温泉の訪問地は福島県内の温泉が約8割を占めた。また東北滞在者の訪問タイプ別入り込み数と、関東滞在者、関西滞在者のタイプ別希望訪問数の構成比がほぼ似かよっていることがわかる。

(3) 訪問目的および希望訪問目的

図-3に東北滞在者、また関東、関西滞在で東北地方を訪れたことがある人の訪問目的と、関東、関西滞在で東北地方を訪れたことがない人の希望訪問目的を示す。

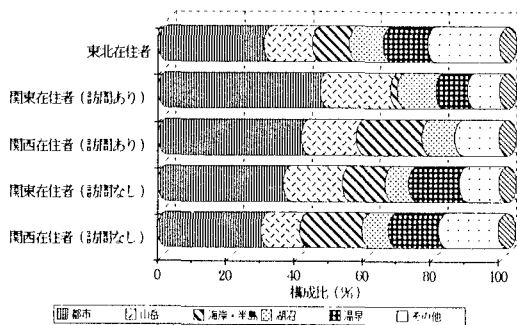


図-2 訪問タイプ別入り込み数およびタイプ別希望訪問回数

訪問目的から、関西滞在者が訪れる目的として「史跡・文化財を見る」の割合が東北滞在者における割合と比べて大きく増加していることがわかる。特に城郭など歴史的な建物が残る弘前、平泉、仙台、会津若松などの都市が訪問先としてあげられていた。また訪問経験のある関東滞在者において「スポーツをする」の割合が東北滞在者と比べて多くなっている。磐梯山や蔵王が訪問先としてあげられ、スキーや登山をしたと考えられる。また訪問経験のない関東、関西滞在者においては、「美しい自然景観を見る」の割合が東北滞在者における割合より高くなっている。「美しい自然景観を見る」を目的としてあげた関東、関西滞在者の約3割が、都市を訪れたいと考えていた。これは東北地方には都市周辺に多くの自然が残っていることからだと考えられる。また関東、関西地方に滞在の外国人が「買い物をする」目的で東北地方を訪れることは少なかった。

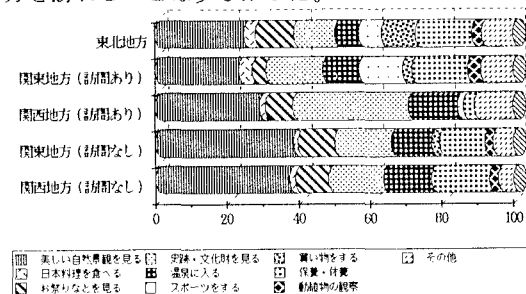


図-3 訪問目的および希望訪問目的

(4) 感銘した要素

図-4に東北、関東、関西滞在者があげた訪問地における感銘した要素を示す。

感銘した要素から東北、関東、関西滞在者のともに「山並み」をあげた割合が最も高かった。「山並み」をあげた関東、関西滞在者の訪問先として特に磐梯山があげられていた。また東北滞在者が感銘した要素として「お祭り」を高い割合であげていたが、関東、関西滞在者にはあまりあげられていなかった。関西滞在者においては定性的に神社をあげた割合が、また関東滞在者においては城郭をあげた割合が、それぞれ東北滞在者の割合と比べて高かった。これらのことから東北地方の

自然景観に加えて、歴史的な建造物に魅力を感じているといえよう。

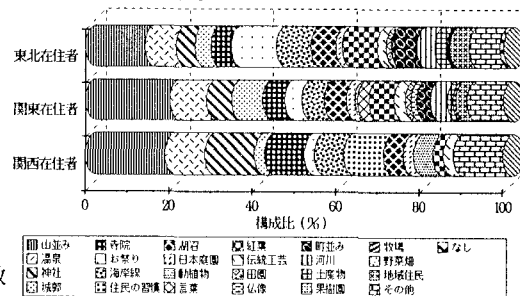


図-4 感銘した要素

(5) 不満点

図-5に東北、関東、関西滞在者があげた不満点を示す。

不満点については、関西滞在者において定性的に「なし」の割合が高くなっていると言える。また東北、関東滞在者の不満点の上位にあげられているものは、「人の混雑」「ゴミ」「物価が高い」といった項目がほぼ似かよった割合であげられていた。

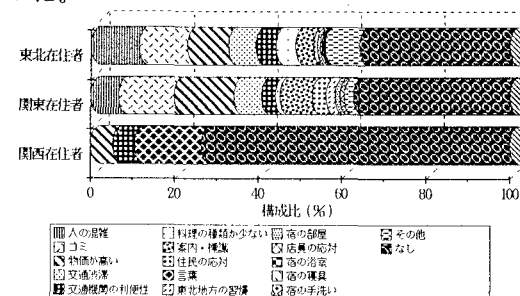


図-5 不満点

4. まとめ

(1) 「東北滞在者、関東滞在者、関西滞在者に共通して東北地方の自然環境、特に山並みを高く評価している。」

(2) 「東北滞在者は、東北地方の伝統文化、特に祭りに対して興味を抱いている。」

(3) 「関東、関西滞在者は、東北地方の歴史的な建造物、特に神社、城郭に対して興味を抱いている。」

(4) 「東北、関東、関西滞在者における訪問先は、地方中心都市に集中している。」

(5) 「関東滞在者において、海岸・半島を訪問希望している割合に比べて、実際に訪れている人は少ない。」

(6) 「関西滞在者において、温泉を訪問希望している割合に比べて、実際に訪れている人は少ない。」

参考文献

1) 安藤昭、赤谷隆一、上田亨、戸村道子、五十嵐日出夫：城下町起源の都市圏の風土イメージの分析、環境情報科学、第23巻 第4号 平成6年11月